



2020年1月25日(土) チーム神於山 活動報告

2020.01.29
シャープ社友会
チーム神於山
真砂 記

■活動日：2020年1月25日(土) 10:00~14:30

■参加者：チーム神於山 8名

■活動内容

- 今回は、午前中はフクロウの巣箱の観察とトレイルカメラの設置に加え、上部植栽地の間伐を行い、午後は作業道の整備と、一昨年の台風で倒れ、ヒノキの疎林に枝掛りしているヤマザクラの巨木の処理方法を検討しました。
- フクロウは、営巣している姿は確認できませんでしたが、上下二つの巣箱共、敷き込んだ藁が設置した時に比べて大きく変化していましたから、出入りしていることは間違いなさそうです。
- 今回、1月11日に設置したトレイルカメラの取り付け部材にカメラをセットしましたから、出入りする姿を捉えることが出来るかもしれません。次回が楽しみです。
- 間伐は、昨年の反省(数を優先した結果、伐った木の処理が疎かになり、今年の草刈りの障害になったこと)を生かし、伐った枝の集積と幹の基地への運搬が出来る範囲で行いました。
- 活動頂いた8名の皆さん、お疲れ様でした。
- 昼は、金井さんの奥さんからの差し入れのトン汁で暖まりました。ありがとうございました。

■次回以降の活動テーマ

- やることは色々ありますが、倒木の処理を含め、間伐がメインになる事は間違いなさそうです。別途ご案内しますので奮ってご参加ください。

■午前の部：間伐 いたずらに数を追わず、伐った木の枝払いから集積・運搬迄キッチリ仕上げました。



間伐に、太枝切りに、18V レシプロソー大活躍！

• 間伐は、持ち込みのチェーンソーが、エンジンがかからず、使えなかった為、ノコギリ中心で進めることになりましたが、直径が10cmを越え、10m近く伸びた木を伐倒し、細断するのはかなりの重労働です。

• その中で、土居さん持参のレシプロソー(電動ノコギリ)が大活躍。
• バッテリー式ですが18V対応なのでかなり力があり、手で伐るよりは遥かに効率良く進められました。



幹は機関車ならぬノコギリ三重連で。



小枝はまとめて現場に山積み。

• ただ刃がそれほど長くないのと充電式なので、直径が15cmを越えると流石に難しいものがあり、本格的な間伐にはチェーンソーが欠かせないようです。

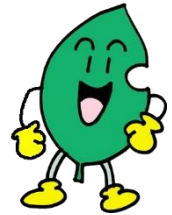




草刈時の目印の為、切口は若干高めです。



- 間伐場所は、フクロウの営巣地のクリの木広場に続く斜面に絞り、樹種は、太く大きく育ったヤマザクラは避け、シイタケやナメコの原木栽培の為の榎木や、炭焼に使えるクヌギやコナラを中心に進めました。
- 更に、枝や幹の先端の細い部分は現場で切り取り、一ヶ所に集めて山積みにし、幹の太い部分は榎木サイズの120 cmに切り揃え、基地に運びました。



■ 午前中の作業を終え、基地に運んで井桁に組んだ幹を前に一枚（真砂写） ■



間伐と言う一仕事を終え、皆さん“どや顔”です。

■ 昼は、金井さんの奥さんからの差し入れの、絶品のトン汁で暖まりました。 ■



- トン汁は、保温ジャーに入っていましたから暖かく、寒い冬には何よりのご馳走ですが、内窯は、そのまま調理に使える優れもので、金井さんが、別途持ち込んでくれたカセット式ガスコンロで温め直しましたから、更にマイウーでした。
- ご夫婦の心配りに感謝です。



■ 午後の部：作業道の整備と倒木のヤマザクラの処理方法の検討



- 作業道は、2006年の神於山シャープの森発足時に、林道の入口から奥のフクロウの営巣地迄、斜面を削って作られていますが、一昨年及び昨年の豪雨で土砂が流され、約50mほどが元の斜面に戻りかけています。
- 今回、鍬とスコップで修復を試みましたが、土止めが必要な山側と谷側の内、先ず谷側に土止め策を打つ必要があります。
- 色々話し合う中で、原さんから「畔波板」を使う提案があり、次回試してみることになりました。

間伐に、太枝切りに、18Vレシプロソー大活躍！



《ヤマザクラの倒木処理方法の検討》

- 一昨年の台風で植栽地と自然林の境界に生えているヤマザクラの自然木が倒れ、名物のヒノキの疎林の一本に枝掛りしています。
- 厄介なのは、ヤマザクラが、根元部分で直径50cm近い巨木であることと、先端の二股に分かれた枝がヒノキに掛かっていることの二つで、ヤマザクラだけでなく、ヒノキも伐倒する必要があると思われることです。
- 結論は、先ずヤマザクラを根元で伐り、枝が外れなければヒノキも伐倒することになり、次回機材を揃えて処理することになりました。

破線の円の所で枝掛りしています。

以上